

東京オートサロン 2003 開催



スポーツモデルが復権の兆し！

カーメーカー 8社をはじめ、
各カスタマイズメーカーが大集結！

1月10日から12日までの3日間、千葉県・幕張メッセでチューニング&ドレスアップカーの国内最大イベント「東京オートサロン2003 with NAPA」が開催された。

21回目の開催となる今年は、280社が760台を出展し、過去最高となる2万9794人の来場者を集めた。

国内カーメーカー8社が昨年引き続き顔を揃え、大規模なブースに各社のカスタマイズカーが勢揃いし、様々な催しが行われた。

新車の販促を狙った取組の一環として、トヨタ・ウィッシュやマツダ・RX-8、三菱・ランサーエボリューション、スバル・レガシィB4ブリッツェンなど、発売前の新型車やそのカスタマイズバージョンを先行展示し、多くの来場者の関心を集めていた。

一方、チューニング&ドレスアップパーツメーカー、部品用品メーカーも数多く出展し、発売間近の新商品や新技術を積極的にアピールしていた。



モデューロからは、エアロやフロントグリル、ホイールにシースルーな素材を用いたモビリオスパイクを展示。その斬新なアイデアでコンセプトカー部門の優秀賞を獲得した。



トヨタブースには、新型車ウィッシュや次期ハリアー、ターボ化されたヴィッツをはじめ、ミニバンを中心に33台のカスタマイズカーが揃った。やはり、先行展示されたウィッシュに注目が集まり、連日大きな人だかりができていた。



スバルは、写真のASTeインプレッサのほか、STiやSc LaBo、スバル系チューナー5社のカスタマイズカーを揃えた。

今年もカーメーカー8社が勢揃い!

国内カーメーカー8社が今年も勢揃いした。昨今の厳しい新車販売市場においてカーメーカーが最も力を注いでいるのが若年層の囲い込みである。

オートサロン来場客の年齢層を見てみると、24歳以下が3割、25歳〜30歳以下が4割と、20歳代以下が全体の約7割を占める。この若年層の多様化するニーズに対応するため、標準車とは異なるテイストのクルマを提案することで、新車の販売を促進する狙いがカスタマイズにはある。その提案の場として、オートサロンをはじめとするイベントに発表前の新型車を先行展示したり、純正オプションだけに限らずアフターメーカーのパーツを装着したカスタマイズカーを展示するわけだ。

さらに最近では、単にオプションパーツを装着するだけではなく、お客様の好みでクルマを改造するカスタムのジャンルにも積極的に進出してきている。

オートサロンで新型車を先行発表

ミニバンを中心に33台のカスタマイズカーを揃えたトヨタブース。1月20日に発売された「ウィッシュ」のカスタマイズバージョン7台を先行展示していた。純正用品でドレスアップした、カスタマイズスポーツバージョンと「エレガントスポーツバージョン」のほか、モデリスタからストリートビレットやダムドバージョンなど、5モデルが展示された。まだ発売前の車両ということもあり、多くの来場者の注目を集めていた。また、次期ハリアーと思われる「新概念トSUWagon」や、12月にマイナーチェンジしたウィッツをTRDがチューニングを施した「ヴィッツRSターボ」も展示していた。

マツダからは今年のオートサロンの目玉の一つである「RX-8」のカスタマイズ車が出展された。

RX-8は、大人4人が乗れる4ドアスポーツカーをコンセプトに、今までスポーツカーに乗りたくても乗降性や快適性の面で購



フェアレディZは、スポーツモデル復権の筆頭だ。東京オートサロンでは約40台のZが展示された。



スズキは市販車のカスタマイズバージョンを展示するとともに、すぐにも市販化できそうなラバンキャンバストップやカントリーバンを展示。また、12月に設立したSWTが推進するモータースポーツ車両も3台展示した。



環境問題等により、GTRやスーブラ、シルビアなどが絶版になり、昨今トーンダウン気味のスポーツモデルであるが、今年のオートサロンでは、約250台のスポーツモデル(チューニングカー含む)が展示されるなど、復権の兆しが見られた。

パーツ装着だけのカスタマイズからボディチューニングの領域へ

入できなかった人に、スポーツカーを楽しんでもらうために開発されたクルマ。オートサロンに出展された、マツダスピードコンセプトTMでは、さらに外観、内装、性能などの面でノーマル以上に開発コンセプトを具現化している。

また、三菱は「ランサーエボリユーシオン」の米国仕様を展示したほか、スバルは「レガシイB4ブリッツエン2003モデル」を先行展示した。

ホンダ純正カスタマイズブランドのモデューロは、モビリオスパイクのコンセプトモデル「モジュール・ボックス」を出展した。様々なマテリアル(素材)をパーツごとにモジュール化し、いろいろなマテリアルを持つテイストを自由に楽しむことをコンセプトに「スケルトン」「メタル」「マット」「カーボン」の4種類を用意。出展車両は「スケルトン・モデューロ」で、透明樹脂を素材とするエアロ・フロントグリル・ホイール

などのモジュールをメタリックなボディと組み合せている。

また、スバルからは「走り・個性の頂点へ」を開発テーマに製作された「スバルAST Eインプレッサ」が出展された。ピラーをカットして天井自体を100mmダウンさせたチョップドルーフや、前後のフェンダーをプリスタライズし、左右に大きく張り出しを持たせ、ワイド&ローを強調させた。

スポーツモデルが復権か!?

今年のオートサロンではスポーツモデルの復権が見られた。その筆頭はフェアレディZ。チューニングメーカーやショップがベース車として次々に採用し、約40台のフェアレディZが展示された。

このほかに、ダイハツ・コペンやスバル・インプレッサ、これからデビューする三菱ランサーエボリユーシオン、やマツダRX8など、ミニバンやコンパクトカーに主役の座を奪われたスポーツモデルが136台(チューニングカーを合わせると249台)と最も多く展示された。

アベックス



PSレボリューションマフラーは、「静かさ」と「ハイパワー」を新技術で具現化したマフラー。新開発のバルブシステムを内蔵したメインシェルが低速では音量を抑えめに、高回転域では迫力のサウンドとハイパワーを実現した。



スーパーキャタライザーは、環境問題に対応するスポーツ触媒。メタルハニカムのセル密度に130cpsという極めて目の粗いセル数を使い低圧力損失を実現。さらに、メタルハニカムに貴金属コーティングを施すことで、ハイパワーと優れた浄化性能を高次元でバランスさせた。

03年トレンドアイテムカタログ
チューニング&ドレスアップ

見た目第一!

O・Z



O・Zが提案するのは、「パテントリップ」。ホイールのリムの上から交換式ステンレス製リムを取り付ける。これによりリムを傷つけた場合でも、交換用リムを取り替えるだけで新品同様の輝きが復活する。

HKS



独創的リアビューで個性を演出するHKSの「キャンディーボール」。同製品は、テールから下方に排気ガスを抜くため、排気口を自由にドレスアップすることが可能になった。6色のテールキャップをラインアップし、個性を存分にアピールすることができる。《参考出展》

PIAA



PIAAは、BMWのポジションランプに見られるリング形状の「リングマーカランプ」を出品した。超高輝度LEDを採用し、ピンスポットやポジションを配光する。価格は未定だが、今春発売予定となっている。

車高調整も室内から!

テイン



昨年の減衰力を自在に調整できる「EDFC」に続き、室内から車高調整ができる油圧式車高調整ダンパー「ハイブリッド・ワゴン」が参考出品された。同製品は、全長調整機構に油圧シリンダーを採用して車高調整を行うため、ダンパーのストロークやスプリングのプリロードに影響せず、快適な乗り心地を実現する。

アースングに続く商品!

サン自動車



サン自動車は「ホット・イナズマ」を参考出品した。アースングがバッテリーのマイナス端子からエンジン各部へ電線を直接接続し、電気の流れを良くすることで電装品の性能を最大限に引き出すのに対し、同製品はバッテリーが供給する電圧を安定させることで電装品に掛かる負荷とロスを軽減させ、エンジンをはじめとした各機能のパフォーマンスを向上させる。

「EDFC」に対応した商品は、スポーツ車向けの「TYPE FLEX」だけであったが、3月よりいよいよワゴン向け「SUPER WAGON」が発売される。